

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データリテラシー	2	○	○	○	○						
AI導入	2	○	○	○	○						
統計学A	2		○	○							
実践クロス演習(AI×デザイン)	2			○							
AI入門	2		○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データリテラシー	4-8データ活用実践(教師あり学習)	AI入門	4-7データハンドリング
AI導入	4-8データ活用実践(教師あり学習)		
プログラミング導入	4-3データ構造とプログラミング基礎		
プログラミング入門	4-3データ構造とプログラミング基礎		
データサイエンス入門	4-6画像解析		
統計学A	4-4時系列データ解析		
実践クロス演習(AI×デザイン)	4-7データハンドリング		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・人間の知的活動とAIの関係性「データリテラシー」(2回目)「AI導入」(2回目)「先端技術産業論A」(8、12、13回目)「データサイエンス入門」(5回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データリテラシー」(2、8～11、13回目)「先端技術産業論A」(8、12回目)「データサイエンス入門」(7回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(1回目) ・ビッグデータ、IoT、AI、ロボット「AI導入」(1回目)「先端技術産業論A」(3、4、7、11～13回目)「データサイエンス入門」(3回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(1回目)「AI入門」(1～4回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「AI導入」(1回目)「先端技術産業論A」(1～4、11～13回目)「データサイエンス入門」(2、3回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(1回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「AI導入」(2回目)「先端技術産業論A」(3～7、11～13回目)「データサイエンス入門」(2回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(1回目) ・複数技術を組み合わせたAIサービス「AI導入」(3回目)「先端技術産業論A」(8回目)「データサイエンス入門」(8～11回目)「AI入門」(2～4回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「AI導入」(3回目)「先端技術産業論A」(3、13回目)「データサイエンス入門」(9～11回目) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「AI導入」(9、11、12回目)「先端技術産業論A」(7、8回目)「データサイエンス入門」(6回目)「AI入門」(2～4回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データリテラシー」(2、10～12回目)「AI導入」(4回目)「データサイエンス入門」(4回目) ・1次データ、2次データ、データの多様化「データサイエンス入門」(4回目) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「データリテラシー」(3、12回目)「AI導入」(4回目)「データサイエンス入門」(4回目) ・データ作成(ビッグデータとアナレーション)「データサイエンス入門」(3、4回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス入門」(4回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「データリテラシー」(11回目)「AI導入」(3回目)「データサイエンス入門」(5回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「AI導入」(3回目)「データサイエンス入門」(3、8～10回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データサイエンス入門」(7回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化、リアルタイム可視化など「データリテラシー」(5、12回目)「データサイエンス入門」(9回目)「AI入門」(5～8回目) ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「データリテラシー」(10回目)「データサイエンス入門」(6回目)「AI入門」(9～12回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「データサイエンス入門」(6、8回目)「AI入門」(13、14回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「AI導入」(2回目)「データサイエンス入門」(12回目) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「データサイエンス入門」(5、6回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「データサイエンス入門」(7回目) ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データリテラシー」(11回目)「AI導入」(3回目)「データサイエンス入門」(5、8～11回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> データ・AI活用における負の事例紹介「データリテラシー」(2、8、9回目)「AI導入」(13回目)「データサイエンス入門」(12回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(14回目) データ倫理:データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データリテラシー」(11回目)「AI導入」(8回目)「データサイエンス入門」(12回目) ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「AI導入」(8回目)「データサイエンス入門」(12回目) 個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「AI導入」(8回目)「データサイエンス入門」(12回目) AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「AI導入」(13回目)「データサイエンス入門」(12回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(14回目) データバイアス、アルゴリズムバイアス「AI導入」(13回目)「データサイエンス入門」(12回目) AIサービスの責任論「AI導入」(13回目)「データサイエンス入門」(12回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(14回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ:機密性、完全性、可用性「データサイエンス入門」(13回目) 匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「AI導入」(8回目)「データサイエンス入門」(13回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(14回目) 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス入門」(13回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> データの種類(量的変数、質的変数)「データリテラシー」(3、12回目)「AI導入」(4回目)「統計学A」(1回目)「AI入門」(5、7、8回目) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データリテラシー」(4回目)「AI導入」(6回目)「統計学A」(2、3回目)「AI入門」(6回目) 代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「データリテラシー」(4回目)「AI導入」(6回目)「統計学A」(2回目)「AI入門」(6回目) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「データリテラシー」(4回目)「AI導入」(6回目)「統計学A」(4回目)「AI入門」(6、7回目) クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「データリテラシー」(4、5、7回目)「AI導入」(7回目)「統計学A」(6回目) 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「データリテラシー」(7、13回目)「AI導入」(7回目)「統計学A」(5、6回目)「AI入門」(8回目) 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「データリテラシー」(7、11、13回目)「統計学A」(1回目)「AI入門」(5~8回目) 観測データに含まれる誤差の扱い「データリテラシー」(8~11、13回目)「統計学A」(7、8回目) 母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「データリテラシー」(8、9、11、13回目) 打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ「データリテラシー」(11、13回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)「データリテラシー」(3~7回目)「AI導入」(5回目)「統計学A」(3~5回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(8~10回目)「AI入門」(5~8回目) データの図表表現(チャート化)「データリテラシー」(4、5、7回目)「統計学A」(3回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(8~10回目)「AI入門」(5~8回目) データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト)「データリテラシー」(5、7回目)「実践クロス演習(AI×デザイン)」(8~10回目)「AI入門」(5、6回目) 不適切なグラフ表現(チャートジャック、不必要な視覚的要素)「データリテラシー」(5、11、13回目)「AI導入」(5回目) 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「データリテラシー」(5、7、12回目)「AI導入」(5回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> データの集計(和、平均)「データリテラシー」(3、6回目)「AI導入」(6回目)「AI入門」(5~8回目) データの並び替え、ランキング「データリテラシー」(6回目)「AI入門」(5~8回目) データ解析ツール(スプレッドシート)「データリテラシー」(6、10、12回目)「AI入門」(5~8回目) 表形式のデータ(csv)「データリテラシー」(6、12回目)「AI入門」(5~8、12回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- (1) 社会において必要とされる、AI・データサイエンスに関する基礎的な教養を修得する。
- (2) 本学に設置する分野から、横断的にAI・データサイエンスに関する様々な知識・経験を得る。
- (3) 体系的な学修を通してAI・データサイエンスの考え方を理解し、活用することができる。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和4 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和4年度									令和3年度									令和2年度									令和元年度									平成30年度									平成29年度									履修者数合計	履修率
				履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数			履修者数			修了者数																						
				合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性																							
経済学部	1,568	400	1600	390	338	52	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	390	24%																					
商学部	2,048	500	2000	143	115	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	143	7%																								
地域共創学部	1,101	280	1120	64	48	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64	6%																								
理工学部	1,458	370	1480	385	367	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	385	26%																								
生命科学部	373	110	440	51	33	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	12%																								
建築都市工学部	794	200	800	44	39	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	44	6%																								
芸術学部	1,257	300	1200	70	30	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70	6%																								
国際文化学部	555	140	560	27	16	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	5%																								
人間科学部	944	230	920	9	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1%																								
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!																								
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!																								
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!																								
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!																								
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!																								
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!																								
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!																								
				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	#DIV/0!																								
合計	10,098	2,530	10,120	1,183	994	189	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,183	12%																								

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

- ① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人
- ② プログラムの授業を教えている教員数 人
- ③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

- ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

- ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ⑥ 体制の目的
- 学部長会議は、学則に基づき設置している。
 学部長会議は、学部間の連携を図り、本学及び各学部等の教育研究に関連する重要事項や、各学部間において連絡調整を要する事項について審議を行う組織であり、学長を委員長に、副学長及び各学部長、基礎教育センター所長等が構成員である。
 本学で取り組む「AI・データサイエンス副専攻」は、全学共通のKSU基盤教育で開設する授業科目と、各学部で開設する専門の授業科目で構成している。全学的に数理・データサイエンス・AI教育を推進するための取組みであり、全学的な連携が必要である。また、今後の高等教育において必要とされる多様で柔軟な教育を行うため、相互履修による文理芸融合教育の促進も目的としていることから、大学全体を俯瞰して検討・審議することができる組織として既存の学部長会議を活用し、プログラム全体の改善・進化を図る。

- ⑦ 具体的な構成員
- 学長 北島 己佐吉
 副学長 千 相哲(地域共創学部 教授)
 経済学部長 萱沼 美香(経済学部 教授)
 商学部長 高木 昇(商学部 教授)
 地域共創学部長 石川 泰成(地域共創学部 教授)
 理工学部長 牛見 宣博(理工学部 教授)
 生命科学部長 金田 弘拳(生命科学部 教授)
 建築都市工学部長 林 泰弘(建築都市工学部 教授)
 芸術学部長 栗田 融(芸術学部 教授)
 国際文化学部長 三浦 香織(国際文化学部 教授)
 人間科学部長 鐘ヶ江 淳一(人間科学部 教授)
 基礎教育センター所長 鶴田 和寛(理工学部 教授)
 健康・スポーツ科学センター所長 奥村 浩正(人間科学部 教授)
 事務局長 柗田 勝司
 ※当該事項を審議する際は、学則第70条の2第2項第7号に基づき、教務部長 松原 岳行(国際文化学部 教授)を加える。

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	12%	令和5年度予定	25%	令和6年度予定	30%
令和7年度予定	35%	令和8年度予定	40%	収容定員(名)	10,120

具体的な計画

「AI・データサイエンス副専攻」は、令和4年度から開始した取組みであり、同年度入学生から受講が可能である。対象となる学生には各種ガイダンスにおいて、適宜説明し、履修を促している。令和4年度の1年次向けに開講した対象科目は9科目であるが、令和5年度以降、2年次対象科目20科目、3年次対象科目11科目の開講を予定しており、計画に沿った履修者の増加が見込まれる。

今後も、履修者数・履修率向上の計画を達成するために、新入生には引き続き教務ガイダンスを始めとした、各種ガイダンスで個別の項目としてピックアップして説明を行うとともに、社会で急速に進むAI化、DX化、人材のニーズについて解説したチラシを配布し、学修の必要性を認識させ、受講学生の声も紹介するなど、積極的な受講を促していく。

また、2年次に対しては、進級する際に実施する新年度ガイダンスにおいて改めて説明を行い、学生に副専攻プログラムを積極的にPRし、受講を促進していく。

また、開講クラス数についても、学生の履修状況を確認しながら、担当教員が過度な負担にならない範囲で調整し、履修者数を向上させていくこととしている。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

「AI・データサイエンス副専攻」は、科目を大きく「情報テクノロジー」、「データサイエンス」、「AI」の3つに区分し、さらに「導入」、「基礎」、「応用」の段階を示し、体系的に構成している。

各区分の導入段階に位置付けている「プログラミング導入」、「データリテラシー」、「AI導入」については、全学共通で実施するKSU基盤教育科目で複数のクラスを開講しており、学部・学科に関係なく、希望する学生が受講可能である。

また、各学部において開講する専門科目についても、所属学部・学科以外で開講される科目を積極的に受講できるよう、既存の他学部・他学科科目受講の仕組みを活用することで、簡便に手続きできる。学生は、修得単位を卒業要件の一部として算入でき、受講しやすい環境を整えている。

今後も、履修者数の動向を確認し、開講クラス数の調整を行うことで、希望する学生が受講できる環境を整える。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

新入生に対しては、入学後のガイダンスにおいて、「AI・データサイエンス副専攻」の取組みを解説した資料を配布し、AI等に関する人材のニーズ等をピックアップして説明を行い、学生の興味・関心を喚起するよう対応している。また、進級時に実施する新年度ガイダンスにおいても改めて説明を行い、改めて積極的に履修するよう促している。

「AI・データサイエンス副専攻」については、本学の特色ある教育プログラムとして、大学HPで周知しており、併せて、入試情報のサイトにも掲載し、入学前から広く広報を行っている。

在学生に対しては、多くの学生が利用する学食付近に副専攻プログラムのポスターを掲出している。学生が常に目に触れる機会を作り、情報を受け取りやすい環境を整えることで、年間を通して認知度を向上させる取組みを行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

全ての科目についてLMS(Moodle)を整備しており、学生は授業や事前事後学習に必要な資料を容易に確認することができる。授業科目担当教員も、Moodle上で課題・レポートの提出や進捗状況を確認できる。

また、本学では、Zoomによる遠隔授業の実施環境を整備し、授業を録画することができる「Panopto」(クラウド型動画プラットフォーム)を導入している。PanoptoへのリンクはMoodleに掲載されており、簡便なアクセスを実現している。学生は、動画により事後学習等に簡便に取り組むことができる。

さらに、本プログラムの事務局を担当する教務部は、プログラム全体の履修状況を把握し、各科目の受講状況に応じて開講クラスの調整を行っており、できる限り多くの学生が履修できるようにサポートしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学では、全ての専任教員にオフィスアワーを設定するとともに、非常勤講師に対しても、授業の前後の時間に学生からの質問を受け付けていただくよう依頼をしている。学生は授業時間以外にも、教員に質問をすることができるような環境を整えている。

また、非常勤講師を含む、全ての教員に対して大学のメールアドレスを付与し、併せて、Microsoft365やZoom等様々なツールを利用できる環境を整備している。学生はこれらを通じて教員に質問等を行うことができる。

「AI・データサイエンス副専攻」プログラムの履修相談等については、多くの学生が利用する1号館にある教務部で受け付けており、必要に応じて担当教員に相談するなど、学生の利便性向上に資する体制を整備している。

特に、本プログラムの必修科目を担当する教員は基礎教育センターに所属しているが、同センターには職員が常駐しており、気軽に相談できる体制としている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

学部長会議

(責任者名) 北島 己佐吉

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>プログラムを管理する教務部では、対象科目の受講者数、単位の修得状況等を把握しており、状況に応じて開講クラス数の調整等を行い希望する学生が問題なく受講できるよう対応している。</p> <p>教員は、K'sLife(学生、教職員が利用する教育プラットフォーム)を使って学生の出席状況の確認やレポート課題の配信及び提出状況を把握できるようになっており、学修の進捗状況をリアルタイムで把握できる。</p> <p>令和4年度は、対象科目の受講者総数が1,863名、単位修得率が85.3%となった。</p> <p>また、プログラムの必修科目である「AI導入」、「データリテラシー」は、受講者数456名、単位修得率81.1%である。</p>
学修成果	<p>学修成果を把握するため、このプログラム全体の進捗管理を行っている教務部において、開講クラス数や対象科目の履修者数などの状況、単位修得状況等の数値データと、大学評価室が実施する授業評価アンケートの結果と併せて分析を行っている。</p> <p>教務部は、客観的なデータである学部学年別の受講状況や単位修得状況に加え、授業評価アンケートの中から、受講の動機、授業の内容に関する事項等で授業に対するモチベーションや満足度、学修成果に関する事項でどのような成果が得られたかを分析し、併せて自由記述欄の記載事項をまとめる。</p> <p>その結果については、学部長会議で共有し、本プログラムの評価・改善に活用している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>令和4年度は、対象科目の単位修得率が85.3%となった。</p> <p>授業評価アンケートの結果でも、「この授業を通じて、基礎的教養を増やすことができましたか」という設問に対し、75.2%が「とてもそう思う」、「そう思う」と回答している。また、「この授業を通じ、専門的知識を増やすことができましたか」という設問についても、82.0%が「とてもそう思う」、「そう思う」と回答している。</p> <p>また、教員の説明や、配布資料も70%以上が解りやすかったと回答している。</p> <p>授業評価アンケートの結果、単位修得の状況から、受講生は概ね内容を把握しており、高い理解度を獲得していると言える。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケートの結果では、「教員からは授業に関する熱意を感じられましたか」という設問に80.9%が「そう思う」と回答し、「総合的にみてこの授業に満足していますか」という設問にも72.5%が「そう思う」と回答している。</p> <p>自由記述欄でも、「基礎からしっかりと学べた」、「AIについて興味を強くそそられた」、「質問がしやすかった」等の記述が多く、今年度受講した学生が、次年度以降に後輩や、同学年の学生に推奨する状況にあると思われる。</p> <p>なお、本プログラムは、令和4年度から開始したものであるため、受講動機の「他の人に勧められたから」という項目は、4.8%と低い数値であったが、今後改善が見込まれる。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>「AI・データサイエンス副専攻」は、令和4年度から開始した全学部対象のプログラムである。「AI導入」、「データサイエンス」については、修了するための必修科目として位置づけており、入口となる科目の受講を促進するため、入学後の各種ガイダンスにおいて、副専攻についての説明を行うとともに、積極的な履修を呼びかけた。プログラム開始の2年目となる令和5年度は、進級時のガイダンスにおいても再周知し、履修者数・履修率を向上する取組みを行っている。</p> <p>今後、本プログラムを周知している大学のHPにおいて、受講学生の声を紹介し、より一層の興味・関心を持ってもらえるよう広報を行う。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>令和4年度から開始したプログラムのため、現時点においては修了者はいない。</p> <p>本学では、自己点検・評価活動の客観性・公平性を担保し、教育の質の向上を図ることを目的として「外部評価委員会」を設置し、令和4年度は、経済・産業界関係：2名、教育関係：2名、地域関係：2名の計6名に委員に就任していただいている。</p> <p>外部評価委員会は産業界・自治体等を含め、様々な視点からの意見聴取が可能であるため、本委員会において、その他の自己点検・評価の項目に加え、本教育プログラムについても意見聴取を行う。</p> <p>また、本学は株式会社QTnet(福岡地場の電気通信事業者)と包括連携協定を締結していることから、AI・データサイエンスを本業とする同社にも、本プログラムに対する意見聴取を行う。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「AI」や「データサイエンス」を学ぶ上で「数理」は重要な要素であるが、導入段階においては、人による手作業がどのようにAIに代替されるようになってきたか、どのような技術があるのかといった基礎的な部分から始め、AIが社会に与える影響について学ぶ。また、数理的な分析を行う前提となるデータの読み方や考え方などの基本的事項について学ぶ講義内容としており、講義の中では、身近な事例を取り上げて解説を行い、興味・関心を喚起するとともに、今後の社会において必要になる知識であることを認識させて、受講の意義付けを行うよう工夫している。</p> <p>併せて、修了証の授与等についても周知しており、受講の動機付けを行っている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>本学で実施する「AI・データサイエンス副専攻」は、全学共通で実施するKSU基盤教育で導入部分を学び、各学部で開講する関連科目を受講することができる。これは、数理などの専門的な分析に偏ることなく、自身の興味関心のある分野を中心に幅広い知識を得て、理解できる範囲を拡げていくことや、自身のレベルに合わせて科目を選択できるようにするための工夫である。</p> <p>また、副専攻を修了するためには、必ず他学部他学科の授業を受講し単位を修得する必要がある。これによりAIやデータが、分野や状況によって、利活用やアプローチの手法が異なることを学生に理解してもらい、学ぶ楽しさを体感できるようにしている。</p>